

東京都 北区

高齢者福祉、児童館、学童クラブ等を運営し、地域とともに育つ

社会福祉法人東京聖労院

就労継続支援B型事業所

ヴィ長屋



ヴィ長屋の外観

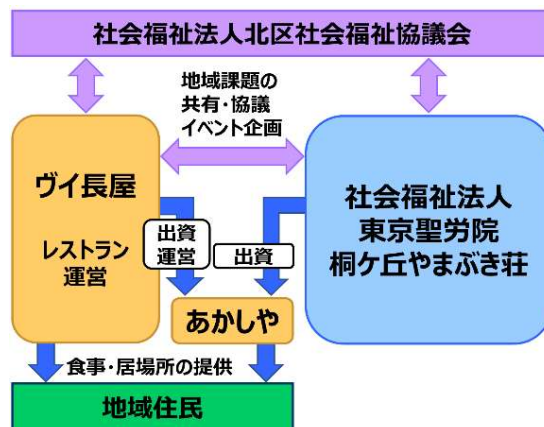


和食を中心とした食事の提供

連携の概要

「地域を知る人々と連携して、地域が本当に求めるものを！食事処と居場所を提供」

社会福祉法人ドリームヴィは、東京都北区を中心に障害者の就労支援、生活支援等を行っている。特に高齢化率が高い桐ヶ丘地域の地域課題を探るうちに、住民の高齢化に伴い、地域の中心であった桐ヶ丘団地の中央商店街の多くはシャッターが閉まってしまい、買い物をする場所や外食をする場所がないことに困っていることが分かった。そこで、独立行政法人福祉医療機構の「社会福祉振興事業」を受け、シャッター街に食事処をつくることで地域を活性化することを目指した。実現にあたっては、桐ヶ丘やまがき荘の地域包括センターや、地区の自治会長、民生委員、商店会長、北区社協等の様々な人々と協力して推進し、平成26年にカフェレストラン「ヴィ長屋」をオープンした。さらに地域の人々が気軽に立ち寄り、SOSを出せる場づくりをしたいと、平成28年には「ヴィ長屋」のすぐとなり「あかしや」をオープンし、地域の高齢者に食事と憩いの場を提供している。



【連携のきっかけ】

ドリームヴィは、障害のある人たちといっしょに地域で必要とされていることを仕事にしたいと考え、住民の半数以上が高齢者である桐ヶ丘地域に着目したが、元々北区の十条地域を中心に活動していたため、桐ヶ丘地域が抱える問題がよくわからなかった。そのため、町のお寺や地域の行事に顔を出すとともに、商店街から近いところにある高齢者施設やまがき荘を訪ね、この地域の高齢者が抱えている問題について学んだ。これをきっかけに北区社協や高齢者施設の運営団体と連携しレストランと居場所を作ることになった。

【連携の特徴】

- ・ 地域の事情に精通している桐ヶ丘やまがき荘と連携することで、地域が本当に求めるものを提供することが出来ている。
- ・ あかしやは、桐ヶ丘やまがき荘が出資し、3者で協議し、運営をドリームヴィがしている。
- ・ 週1回、外出できない高齢者に夕食を宅配し、地域の見守りサービスを実施している。

【連携の成果】

- ・ 地域の高齢者が抱える「地域で外食が出来ない」課題を解決しただけでなく、気軽に集える居場所を作ることができた。
- ・ 地域の障害者が活躍する場所を提供。定年を迎えた高齢者は利用者と近い目線でコミュニケーションを取れることで、若者は地域を若返らせ、活気を生んでいる。
- ・ 高齢者のプロと障害者のプロが連携することで、高齢者と障害者双方のニーズを見出す機会を創った。

活躍できる作業例

作業名	作業内容	向いている人
キッチン（配膳準備・片付け）	食器への料理の盛り付け、食器の洗浄、買い出し	やる気がある人
ホール	配膳、食器回収	人と関わることが好きな人
宅配	高齢者の自宅への懐石風弁当の宅配・食器回収、見守り	人と関わることが好きな人

【ここが違う！ ヴイ長屋の取組み】

元気に働く高齢の利用者が地域の高齢者を元気にし、地元の学生もかかわってユニークな交流に発展

- ① 和食専門のシェフと栄養士の連携で高齢者が喜ぶ栄養バランスのよい食事を提供。働く半数以上が定年を迎えた高齢者であり、地域の高齢者と働く障害者双方が楽しめる場所になっている。
- ② 区が推進する「高齢者ふれあい食事会」を行っており、この食事会を楽しみにして仲間づくりや元気の源にしている人が多い。
- ③ 地域の高齢者だけでなく、新たな連携として近隣の東洋大学・東京家政大学の大学生には、地域課題の調査・分析に協力してもらった。調査結果をもとに地域住民も交えた話し合いから新たな活動が生まれ、大学生も継続的に参加している。
- ④ ヴイ長屋が盛況でお客様が入りきらないため、隣接している施設、あかしやでも食事を可能にして対応。あかしやでは、落語や懐かしの歌等、高齢者が親しみやすいイベントを月1回開催。



ヴィ長屋の内観



お食事のようす

これから取り組む事業所に WIN-WINのポイント



**社会福祉法人東京聖労院
桐ヶ丘やまぶき荘地域包括支援センター
内田美穂氏**

**実行力のあるドリームヴィと
組めたからこそ長年の構想が
実を結びました！**

“行けば誰かがいる”常設のサロンを作りたいという構想を長年あたためてはいましたが、具体化に向けて動き出したのは、ドリームヴィとの出会いがきっかけでした。異分野だからこそ得意分野が違い、一つの法人だけでは解決できない困難な事柄にも挑戦することができました。お互いを知ったり実現していく過程で、発想の広がりや人脈を得ることができ、それまでよりも地域をより多角的に見渡すことが出来るようになりました。



**社会福祉法人ドリームヴィ
ヴィ長屋
理事長 小島靖子氏**

**地域課題をよく知っている人々
との連携があったからこそ実現
できました！**

障害者の支援活動を専門とする自分たちだけの力では、こんなにも桐ヶ丘の地域に受け入れられ、必要とされるサービスは作れなかったと思います。「ヴィ長屋」が地域に愛されることが出来たのは、地域の課題を理解しているやまぶき荘や社会福祉法人北区社会福祉協議会の力を借りられたからこそです。これからも、障害者がいきいきと働きつつ、地域に根付き、必要とされるものを提供していきたいです。



作業の様子を写した動画を公開中！
利用者が実際に作業している様子をご覧ください。

法人名	社会福祉法人ドリームヴィ
事業所名	ヴィ長屋
住所	東京都北区桐ヶ丘1-9-4-2
T E L	03-5948-4300
U R L	http://www.dream-v.or.jp/nagaya/

広島県

安芸太田町

地域住民の暮らしをサポートする拠点づくり

安芸太田町役場

就労継続支援 A 型・B 型事業所
(多機能型)

JOCA×3 (じょかかけさん)



鉄道が廃線となった旧駅前で賑やかさを取り戻した 月ヶ瀬温泉の玄関



食事処での接客対応

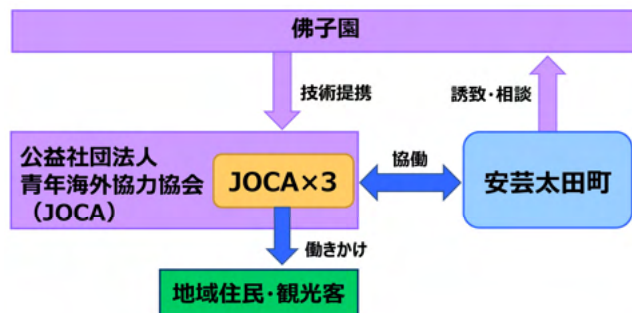


調理場での作業

連携の概要

「町の人口流出減と高齢者サポートのための 拠点づくり。温泉施設『月ヶ瀬温泉』の運営」

高齢化が進み、町の人口流出を懸念した「広島県安芸太田町」が暮らしやすい町づくりという地域課題解決のために「JOCA×3」(じょかかけさん)と連携。JOCA×3は同町内にある元老舗旅館を改修し、エリアサポート拠点『月ヶ瀬温泉』を運営し始めた。月ヶ瀬温泉は温泉施設と食事処で近隣住民の方が気軽に立ち寄り、住民主体でのイベントが開催されたり、地域の集いの場を目指す一方、障がいを持つ方への働く場の提供、生活介護事業の運営など福祉事業所としての一面も持つ。自然豊かなロケーションに位置することもあり、紅葉の季節は町外や県外からの観光客も多数訪れている。地域住民、観光客、障がい者、外国人、様々な方が同じ空間に集う「ごちゃまぜ」の場所を目指している。



【連携のきっかけ】

安芸太田町は地域社会の高齢化に伴い独居老人が増え、子ども世帯と同居するために町を転出する人が増えてきた。それを食い止めるための体制として、高齢者をサポートする拠点づくりを行なった。住民共助による地域コミュニティの再生と障害者の就労支援に取り組む石川県の社会福祉法人「佛子園」と技術提携している公益社団法人青年海外協力協会（JOCA）を誘致し「月ヶ瀬温泉」の整備に取り組んだ。安芸太田町は整備段階で補助金を交付し、現在は地域活性に向けて日常的に意見交換を行っている。

【連携の特徴】

- JOCAは青年海外協力隊（JICA）の参加経験者を中心に結成された団体で地方創生事業も手がける。JOCA×3による安芸太田町での取り組みはそのひとつ。
- 温泉と食事処の経営にA型事業所とB型事業所を組み込んでいる。JOCA×3は誘致のきっかけとなった社会福祉法人佛子園の協力を得て、サービス運営のノウハウを導入している。
- 安芸太田町の人口流出抑制と高齢者等サポートを主目的に、町と事業所が日常的に意見交換を通じて連携を取っている。

【連携の成果】

- 安芸太田町からの誘致に伴うJOCA×3の設立によって、安芸太田町内では初の就労継続支援A型事業所ができた。
- 今回の連携事業によって地域の高齢者や住民の居場所ができた。月ヶ瀬温泉は地域交流拠点となっている。
- 休日は町外や県外からの観光客が訪れる施設になり、安芸太田町の交流人口を増やすきっかけとなった。
- 温泉にとどまらず、今後、高齢者の健康維持のためのウェルネス事業を整備予定に加え、若者からの要望が多いカフェなどの新規事業にもチャレンジしていきたい。

活躍できる作業例

作業名	作業内容	向いている人
接客・レジ	挨拶等のお客様対応。水を出す。注文を取る。レジ清算	人と接することが好きな人
調理場作業	盛り付け等簡単な調理補助。下膳後の食器洗浄	調理に興味がある人
開店・閉店作業	開店前の準備、閉店後の片付け	ルーティン作業が得意な人
加工調理 (製麺・製菓)	水分を調整しながらそばを製麺（機械使用） かえしづくり、団子・餅・漬物づくりなど	細かな作業が得意な人

【ここが違う！JOCA×3の取組み】

地域住民のリピーターを増やす多彩な企画

- ① JOCA×3という事業所名には、地名の加計（かけ）と3町村合併（筒賀村、加計町、戸河内町）を掛け合わせた意味が込められている。
- ② JOCAの関連組織である石川県の社会福祉法人佛子園の協力を得て、温泉施設の経営と障害者就労支援のノウハウを導入している。
- ③ 青年海外協力隊経験者の職員も在籍し、2年間の発展途上国での活動で培ったノウハウを活かしながら、福祉分野を通じ地域の課題に向け取り組んでいる。
- ④ クリスマスや冬至など季節ごとのイベントやミニコンサート、フラワーアレンジメントやヨガ教室などさまざまなワークショップを企画開催し、地域住民が飽きずに訪れたいくなる工夫をしている。
- ⑤ 地域住民にとって、月ヶ瀬温泉がサードプレイス（自宅や学校、職場とは別の居心地の良い場所）になるように、上記のような取り組みを通じ目指している。



製麺の様子



調理場での補助作業

これから取り組む事業所に WIN-WINのポイント



町のキャラクター
「もりみん」

安芸太田町役場 企画課
課長 二見重幸氏

暮らしやすい町になるための
場所として

地域住民がいつでも気軽に行ける場所として拠点整備をす
すめました。ここにすれば顔見知りがいって安心できる、そん
な場所にしたいですね。観光客を含めて利用してくださるお
客が増えています。安芸太田町としては観光施設とい
うより地元の皆さんの利用をさらにすすめて町全体の暮らし
やすさにつながるようにしていきたいです。また、障がい者雇
用の福祉にも力をいれたいですね。



公益社団法人青年海外協力協会
JOCA×3
月ヶ瀬温泉 松岡洋司氏

コンセプトはサードプレイス

2020年8月にオープン以降、少しずつですが、近隣地域
の方々にも足を運んでもらえるようになってきました。当施
設のコンセプトは地域の人たちが自宅のようにくつろげる
サードプレイスです。家に帰るような感覚でつい寄ってしま
い、そこに行けばいつもの人たちとおしゃべりができる、そん
な場所になってほしいので、今後も地域の方々との関わり
を深くしながら運営を安定させていきたいですね。



作業の様子を写し
た動画を公開中！
利用者が実際に作業
をしている様子を
ご覧いただけます。

法人名	公益社団法人青年海外協力協会
事業所名	JOCA×3
住所	広島県山県郡安芸太田町大字加計3505-2
T E L	0826-22-6666
U R L	https://www.facebook.com/pages/category/Health-Spa/Joca%EF%BC%93-%E6%9C%88%E3%83%B6%E7%80%AC%E6%B8%A9%E6%B3%89-115264203354299/

鳥取県 米子市

耕作放棄地の再生とユニバーサル就労に
取り組む

株式会社シルクファーム

就労継続支援 B 型事業所

San-fuku（さんふく）



シルクファームの農園の一部

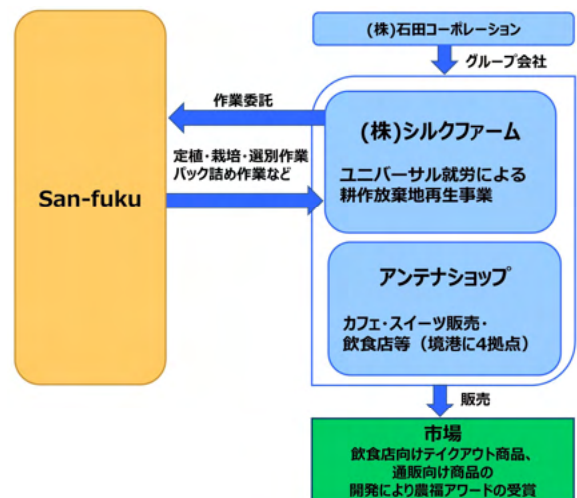


バック詰め後のさつまいも

連携の概要

「大規模な農園を運営する企業と生産工程の一部で連携」

鳥取県米子市の「株式会社シルクファーム」（以下、シルクファーム）と同市内の事業所「San-fuku」の農福連携事業。ユニバーサル就労と耕作放棄地の再生事業としてシルクファームが運営する約40haの農場で、San-fukuが農園の枯草の除去、トマトのバック詰め、さつまいもの根切り、選別作業等を行っている。シルクファームは米子市に本拠を置く総合商社「株式会社石田コーポレーション」の関連法人で、多品種の果物・野菜の生産から六次化までを手がける企業。San-fukuは現在、その生産工程の一部に携わっているが、今後は食材の加工に関わる計画もあるなど、農作業にとどまらない連携の可能性を秘めている。



【連携のきっかけ】

鳥取県の弓ヶ浜半島では、近年、農業従事者の高齢化、後継者不足等の理由で廃農が増加し、荒廃農地の課題解決が求められている。障がい者就労継続支援事業所ではの平均工賃を引き上げの目標があり、両者の課題を解決すべく、人の紹介を通じて農業と福祉の活性化を充実していこうと取り組みが始まった。

【連携の特徴】

- シルクファームは総合商社の株式会社石田コーポレーションのグループ会社であり、SDGsやユニバーサル就労にも積極的に取り組んでいる。San-fukuはその事業の一部を年間業務として請け負っており、個人農家の作業手伝いととまらない連携ができています。
- シルクファームが取り扱う産品や作業の幅が広いので、その中からSan-fukuの利用者の特性に合わせた作業を切り出したり、組み合わせることができる。

【連携の成果】

- この連携事業が障害者就労に貢献していることを理由のひとつに、シルクファームは農林水産省の『ノウフク・アワード2020』の優秀賞に選ばれている。
- San-fukuにとって年間業務を請け負うことで、工賃が伸びる要因のひとつになっている。
- アナログな農作業の工程をマニュアル化したり、作業ごとの単価算出を行うなど、農福連携に経営の視点を強化する取り組みが始まっている。

活躍できる作業例

作業名	作業内容	向いている人
とまとのバック詰め	選別し決められたグラム数に合わせパッケージシラベルシールを貼り、出荷ケースに入れる	丁寧な人、指先の器用な人
さつまいもの根切り	土を落とし、傷み、サイズ、を見極めひげ根や、つるの部分を落とす	判断できる人、根気の続く人
さつまいもの化粧箱詰め	箱を折り、芋を磨き、キロ数を合わせてバランスよく詰める	サイズ、バランスを見られる人
苗植えポット土入れ	決められたラインまで土を入れ、軽く押さえケースにきちんと並べる	丁寧に作業に取り組める人

【ここが違う！ San-fukuの取組み】

農作業の手伝いととまらない事業化を視野に入れる

- ① シルクファームとの連携事業では、9棟のハウスのいちご観光農園での枯草の除去、トマトのバック詰め、さつまいも（紅はるか）の根切り、選別と箱詰めなどに携わっている。
- ② これらはシルクファームの通年業務の一部を請け負う形で行っており、利用者はシルクファームが経営する農園とその選果場に出向き、シルクファームのスタッフと同じ作業を行っている。
- ③ San-fukuが請け負う作業について、誰でも同じ作業ができるようにと作業スピードや所要時間を測って単価を算出したり、農作業の工程のマニュアル化等を進め、連携事業の拡大を図ろうとしている。
- ④ San-fukuの別事業であるさんふくフーズの食品加工工場には大型の業務用急速凍結機が備えられており、San-fukuはグループ事業所と連携して食材の加工事業にも乗り出すことができる。今後はシルクファームとの連携の中でも、果物や野菜の加工を行っていくことを視野に入れている。



さつまいもを計量してバックに詰める



ハウスで水やり作業

これから取り組む事業所に WIN-WINのポイント



株式会社シルクファーム
取締役農福連携担当
中本雅之氏

**農業を通じてお互いが
win-winになる関係づくり**

シルクファームは農業を通じて障害者の職場提供を行っています。ここで働いている障害者の皆さんは覚えたことを忠実にやってくださる方ばかりです。農業には様々な種類の仕事や工程があるので、向いた仕事があればいろいろな仕事に携わってもらえると思います。お互いがwin-winになる仕組みができるといいですね



**特定非営利活動法人
山陰福祉の会
San-fuku**
理事長 山中裕二氏

**農業×福祉×経営の取り組みを
進めたいです**

シルクファームさんはSDGsやユニバーサル就労などにしっかりした理念を持っておられる地域を牽引する大きな企業です。そのような企業さんとの連携は、人を雇用する概念や経営的視点を福祉に取り入れることができます。今後は2社の連携にとどまらず、地域の事業所や企業が参画するコンソーシアムのような仕組みをつくっていきたいです。



事業所ホームページへのご案内です。
事業所の活動を俯瞰的にご覧いただけます。

法人名	特定非営利活動法人山陰福祉の会
事業所名	San-fuku
住所	鳥取県米子市福市1850-2
T E L	0859-21-9789
U R L	https://san-fuku.com/



買物サービスの提供とともに地域の高齢者を見守る



事業所全景

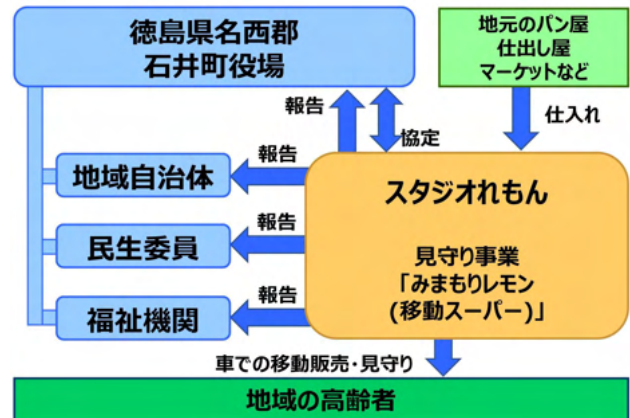


移動販売車で食品や生活用品を販売

連携の概要

「移動販売車で高齢者に買物サービスと見守りを」

「徳島県名西郡石井町」と同町内の社会福祉法人カリヨンの事業所「スタジオれもん」との連携。徳島県名西郡石井町のほか2市町（徳島市、上板町）の広範囲のエリアにおいて、高齢者等の買い物弱者を対象に、「移動販売車」で食品や日用品の販売を実施している。また販売にとどまらず、配達のかたわら、高齢者に異変があると石井町に連絡するという見守り連携の覚書を交わしている。「みまもりレモン」という名称で一人暮らしの高齢者の様子を見守る活動が地域の問題解決につながっている。



【連携のきっかけ】

平成25年度、スタジオれもんが県の事業（障がい者が繋ぐ地域の暮らし“ほっとかない”事業）を活用して、1台の移動販売車を導入し、移動販売という地域活性化事業と買い物弱者対策や高齢者の見守り活動という地域課題解決事業に取り組むことになった。その後、移動販売車は1台追加導入され、2台体制で展開中。

【連携の特徴】

- 自治体から支援の必要な人を本人合意のもと紹介され、毎週決まった曜日に販売のうかがいと見守り支援を行っている。毎週会うことで細かい変化に気付き、見守りとして成立している。
- 現在は移動販売車2台で個人宅と施設を訪問している。対象者（お客様）は70～80代の方が中心。
- ワゴン型の移動販売車に食品と日用品約500～600点を積んで訪問している。

【連携の成果】

- 継続して高齢のお客様と接点をもつことから相手の変化がよくわかり、見守りの重要な役目を果たしている。
- 高齢者の買物客の「買いすぎ」を意識するなど、販売と地域課題解決のバランスをとっている。
- 地域の人と定期的に触れ合う仕事が、事業所の利用者のモチベーション向上につながっている。

活躍できる作業例

作業名	作業内容	向いている人
商品の値付け	卸業者から仕入れた商品にラベラーを使って値付けする	ラベラー操作のための握力がある人 ラベルの数字を操作できる人
伝票入力	売上金額やレシートの数字をパソコンに入力する	パソコン入力（エクセル）ができる人
買い出し同行	商品の買い出しに同行し、職員の補助をする	状況に応じて行動できる人
開店準備・運搬	移動販売車の扉の開閉、荷物の出し入れ、運搬	重い荷物を運ぶ体力がある人
お客様への声掛け	お客様宅のチャイムを鳴らし、声掛けを行う	大きな声で挨拶・笑顔で 接客できる人

【ここが違う！スタジオれもんの取組み】

同じエリアに同じ担当者を配置して継続的に見守りを

- ① 利用者の仕事は商品の買い出し、伝票入力、タグ付け、商品運搬、販売に行くときのお客様への声かけ、コミュニケーションなどで、職員と利用者の2人1組で行動している。高齢者を継続的に見守れるように、対象エリアに同じ人が関われるようにシフトを組んでいる。同じ曜日に、朝昼とシフトを分けて訪問している。定期的な接点を通じてお客様の好みなどを知り、喜ばれる商品を選択している。
- ② 個人宅だけでなく、地域の高齢者施設などに対しても販売を行っている。短時間で売上があがるメリットがある。
- ③ 仕入れ先は平均して3か所。曜日に応じて変えている。地域を大切にしたい思いから、仕入れ先も一企業に絞らないようにしている。



開店準備作業



高齢者の買物をサポート

これから取り組む事業所に WIN-WINのポイント



石井町役場 福祉生活課

**買い物が出来る機会の提供と、
障がい者の活躍できる場所が
増えていく事を期待しています**

石井町も高齢化が進み、高齢者の数が年々増えているので、これからも活動を期待しています。また、就労支援事業所として障がい者の就労支援機会が拡大すればいいなと思っています。



社会福祉法人カリヨン スタジオれもん 塚原唯氏

**移動販売車の仕事で地域の人
との関わりがたくさん生まれてきて
います**

行政、施設、利用者、地域の高齢者がそれぞれの要望と役割を果たして連携できているのがいいですね。以前は短時間で売上があがる施設の販売先がもっと多かったのですが、コロナの影響で少なくなりました。早く回復するといいですね。



**事業所ホームペ
ージへのご案内です。**
事業所の活動を幅広く
ご覧いただけます。

法人名	社会福祉法人カリヨン
事業所名	スタジオれもん
住所	徳島県名西郡石井町石井字尼寺138-2
T E L	088-679-6208
U R L	https://www.lemon.or.jp/office/studio.html

群馬県

玉村町・前橋市

アットホームな雰囲気個性を生かした
深い学びを実現

群馬県公立大学法人
群馬県立女子大学

就労継続支援 B 型事業所

社会就労センターぴいす



学生食堂「ぴいすキッチン」



手作りパン

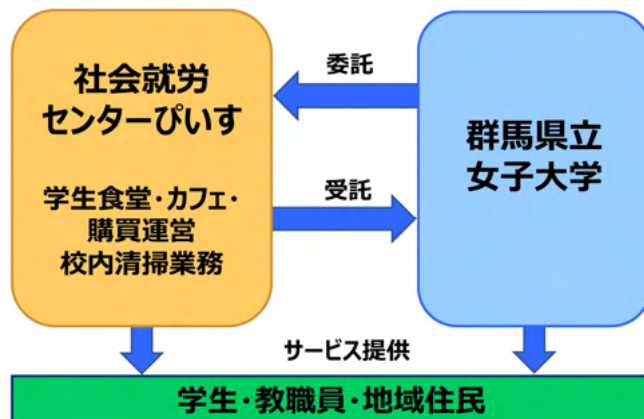


大学校門

連携の概要

「美味しい焼きたての手作りパンを求めて、 学生食堂が憩いの場に！」

社会就労センターぴいすは、2005年6月より群馬県立女子大学内の学生食堂の運営を受託。そこで働く利用者がその運営の一部を担っている。特にランチは旬な食材を用い、良質なものを手作りで安価に提供。2006年4月からは購買部門の運営も受託。学生食堂の厨房奥に設置した窯で焼いた焼きたてパンを提供しており、学生や教職員から好評を得ている。さらに2007年には学内の清掃業務も指名競争入札により受託。プロの清掃業者から学んだ清掃技術をぴいすのスタッフのサポートにより利用者に習得してもらうことで、質の高い清掃サービスを提供している。また、同年に大学の2号館建設に際してはカフェが併設され、学生食堂での運営実績を評価されカフェの運営も受託し、開業に際してはその設計から携わり、障害者でも働きやすいユニバーサルデザインとなっている。



【連携のきっかけ】

群馬県立女子大学（以下、大学）では、これまで学内の学生食堂と購買は別々の業者が担ってきたが、大学長期休暇時の売上減少を要因とした採算悪化を理由に学生食堂受託業者が撤退してしまい、大学側でも新たな業者を探していた。一方で、社会就労センターぴいす（知的障害者通所授産施設）側も2005年開所にあたり事業所で作る弁当やパンの販売先を探す営業を行なっている中で、人を介して大学の紹介を受け、学生食堂と購買ともに受託できることを条件に連携が始まった。

【連携の特徴】

- 学生食堂と購買、学内清掃業務を合わせて社会就労センターぴいすが受託していること。これにより、ぴいす側では年間を通じた売上の安定化が図れ、大学側でも安定的な学生食堂や購買等のサービス提供につながっている。
- 利用者の工賃向上や作業の質の維持及びモチベーションアップのため、作業工程を細分化しチェック項目を作成、利用者の特性や能力に応じて適性にあった業務を行なっている。

【連携の成果】

- ぴいす側では、学生食堂と購買、学内清掃業務を合わせて受託することで、安定的な売上確保となり、持続可能な事業化を図ることができている。
- 施設の利用者である障害者にとっては、地域社会の中で働き安定的な工賃を得ることで、やりがいと生活の安定化を図ることができている。
- 大学側では学生が障害者の働く姿を間近に見ることで、ダイバーシティや共生を自然に学べる機会が創出できている。

活躍できる作業例

作業名	作業内容	向いている人
食材仕込み・調理	食材の洗浄、調理に適した形にカット、調理	衛生管理ができ、手先が器用な人
盛り付け	食器への盛り付け	計量が出来、綺麗に手際よく作業ができる人
接客サービス	レジにて接客	金銭の計算が出来、笑顔で受け答えができる人
食器等洗浄	食器、調理用具の洗浄	汚れがわかって丁寧に作業ができる人

【ここが違う！社会就労センターぴいすの取組み】

民間が参入しにくい事業をチャンスととらえ、学生生活を支える存在として貢献

- ① 公立大学の学生食堂運営業者の確保が事業規模が課題となり不安定であった。そこに法人内で食品事業で実績のあるぴいすがみごとに解決。
- ② 学生食堂では健康を第一に旬な食材を使用し、バランスがよく、栄養価も高い食事の提供等の質の高いサービスが評価された。これにより学内清掃業務や購買、カフェの運営受託にまで業務の幅を広げ、季節による作業量の平準化に成功。
- ③ 当初利用者が学内で働くことに学生が戸惑い、否定的な投書が寄せられたことがあった。これを学長自ら丁寧に説明に努めるとともに、以後の入学式等で学生たちに多様性や共生の重要性を説いている。
- ④ 地道な取り組みにより、学生たちは利用者と身近に接することを通じてダイバーシティについて体験的にも学ぶことができ、結果、大学の強みの一つとなっている。
- ⑤ 利用者も社会の役に立っていることが自身のモチベーションアップに繋がっている。



ぴいすカフェ



厨房

これから取り組む事業所に WIN-WINのポイント



群馬公立大学法人
群馬県立女子大学
小林良江学長

障害者のひたむきに働く姿に
教職員や学生も触発、共生
を身近に学ぶ機会に！

「焼きたての手作りパン、これ本当に美味しいですよ！」

ずばりこの連携成功の要因は、社会就労センターぴいすで働く障害者の方々の質の高い仕事ぶりにあります。焼きたての美味しい手作りパンは学外にもアピールしたいほどです。障害者の方々のひたむきに働く姿に感銘を受けており、学生だけでなく教職員にとっても良い影響を与えてくれています。



社会福祉法人すてっぷ
社会就労センターぴいす
施設長 新井亘氏

多能工化による高い工賃の実現
と働く障害者のやりがいを創出！

学内の長期休暇もあり、売上を安定させ工賃を高めるために清掃業務など業務の幅を広げてきました。丁寧な接客や栄養バランスのとれたランチ提供、手作り焼きたてパンの販売を行い、清掃は一般の清掃会社と同等の技術で行っています。この結果、学内の教職員や学生からその働きぶりを認めていただき、働く障害者本人のモチベーションアップにもつながっています。



事業所ホームページへのご案内です。
事業所の活動を幅広く
ご覧いただけます。

法人名	社会福祉法人すてっぷ
事業所名	社会就労センターぴいす
住所	群馬県前橋市広瀬町3-7-15 内山ビル101
T E L	027-290-6161
U R L	https://s-step.com/?cat=17

佐賀県
唐津市

特定非営利活動法人
蕨野の棚田を守ろう会
相知市民センター産業・教育課

就労継続支援B型事業所

カーマン



蕨野棚田



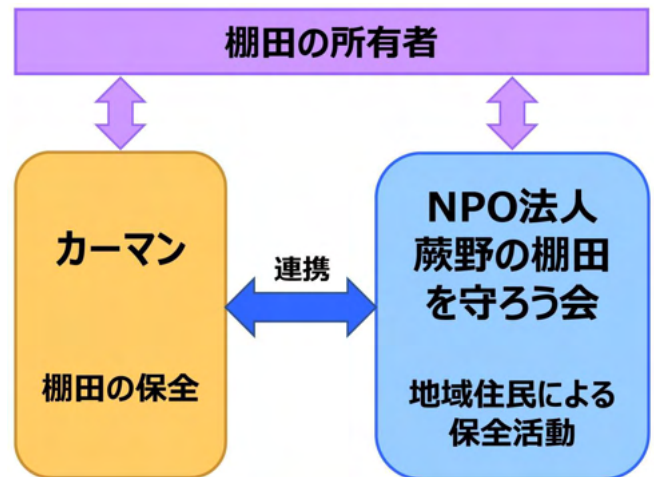
カーマン事業所

連携の概要

「地域課題解決に向けて唐津市、NPO法人、事業所による保全・活用への連携」

相知町の「蕨野の棚田」は、平成11年に「日本の棚田百選」に認定、平成20年に棚田では初めて「重要文化景観」に選定、令和2年には指定棚田地域振興法に基づく「指定棚田地域」に選定されている。その一方で高齢化と過疎化の進行による棚田の保全と活用が大きな課題となっている。

カーマンは平成23年から地域の農家と連携して、原木シイタケ栽培を行っていたが、平成28年に連携する農家の紹介で棚田を所有する個人農家から耕作放棄田を借り受けて、桜苗の定植を行ってきた。その取り組みが評価されたこともあり、現在は棚田の保全活動を行っていた蕨野の棚田を守ろう会と連携して、この重要な景観を保全・活用するための取り組みを行っている。



【連携のきっかけ】

令和2年初夏、居石克己氏（蕨野の棚田を守ろう会理事）より「蕨野棚田地域振興協議会 設立総会」の会議にて、全会一致で、カーマンと蕨野の棚田を守ろう会が連携して、棚田の保全と活用を行うとの参加協力が承認されたことがきっかけとなる。

【連携の特徴】

- 官民一体（所有者、市、カーマン）となった連携の一翼を担っている。
- 桜の定植について収穫した桜葉の出口戦略（民間企業へ納品）が明確であること。
- 作物の作付けをもって棚田の保全・治水を行っている。

【連携の成果】

- 現在、国内に流通する桜葉は、原材料の6割ほどを海外から輸入している。これを国産品として出荷し、「安心、安全」な品物の市場への提供を実現。
- 定植終了（約1万株）後の田畑は、雑穀の作付けをもって保全できる。
- 耕作放棄田の減少を防ぎ、景観保存及び治水に貢献できている。

活躍できる作業例

作業名	作業内容	向いている人
定植・椿竹	種を発芽させ、苗になったものを定植。苗の周り四隅に竹杭を打つ。	全員（全障害者）
草刈り	杭の外側の草を刈る。	利用開始後、 公的安全講習を終えた者
枝の剪定	初冬、地より30cm高さに剪定。	全員（全障害者）

【ここが違う！カーマンの取組み】

耕作活動を進めつつ、棚田の景観保全及び治水に貢献

- ① 棚田保全による土砂崩れを防止・抑制や耕作放棄地の活用を図るという意義ある仕事に従事することで利用者の就労意欲や社会性も過疎地の活性化に貢献している。
- ② カーマンは、「基礎課程」と「専門課程」からなる就労支援を行っている。「基礎課程」では、社会生活を送るために必要な職場でのコミュニケーションを習得する訓練を行い、基礎課程を終了した利用者に対しては、一般就労に向けて適性を考慮した専門課程訓練を実施している。こうしたカリキュラムにより棚田の保全活動、定植、そして多様な農作物の耕作で結果に繋がっている。
- ③ 令和2年では、スダチ（約1,600kg）実山椒（約215kg）梅（約180kg）椎茸（約10,600kg）を収穫。更に、令和3年より約33,000㎡の放棄田の保安全管理を受託。
- ④ 地域の困りごとを一つ一つ解決することで育んできた信頼関係をベースに、既存住民、新規就農者、Uターン住民などとの連携体制が整っている。



桜定植



スダチ

これから取り組む事業所に WIN-WINのポイント

特定非営利活動法人蔵野の棚田を守ろう会
理事 居石克己氏



唐津市相知市民センター 産業・教育課
係長 青木繁明氏
係長 藤田直樹氏

地域に不可欠な担い手として期待しています

カーマンさんは、棚田と里山の保全にあたり、桜の植栽、実山椒や菜花の栽培事業を展開されています。また、通行できなくなるほどになっていた農道等の復旧・整備もやっています。こうした取り組みにより、棚田の景観保全が可能となり、大いに貢献してもらって助かっています。地域においては、高齢化と過疎化により、後継者不足が深刻になっていて、今後さらにカーマンが担う役割は重要なものになっていくと思います。



合同会社トランスノア
カーマン
施設長 河野博氏

「障害者である前に社会人であること」に向けて取り組みたい

事業拡大のために農地を探していましたが、棚田の活用により、展開可能な農地が確保できたことをとても嬉しく思っています。地域の課題解決を地域住民と取り組むことで、利用者自身が社会の一員であることを認識し始めてきました。今後もこうした取り組みを続けることで、利用者が社会人であることへの自覚に繋がることを期待しています。



作業の様子を写した動画を公開中！
利用者が実際に作業している様子を
ご覧いただけます。

法人名	合同会社トランスノア
事業所名	カーマン
住所	佐賀県唐津市蔵木町牧瀬399番地3
T E L	0955-63-2140

岩手県 盛岡市

青少年教育・社会教育に関する施設の
管理運営
一般財団法人岩手県青少年会館
フラップいわて

就労継続支援 B 型事業所

盛岡書房



フラップいわてと連携し古本市へ出店



撮影作業

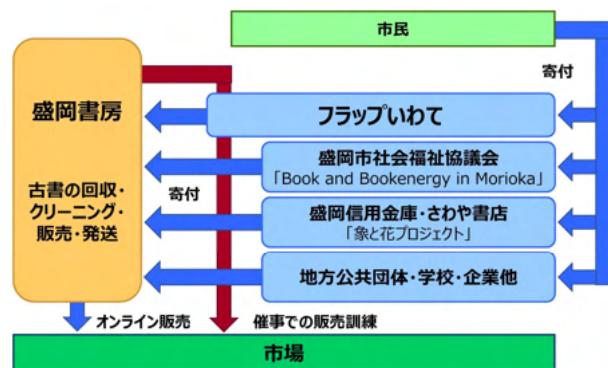


オンラインショップ出品作業

連携の概要

「プロジェクトで古本の仕入れ販売を仕組化。 産学福が連携し地域循環型モデルに成功」

盛岡市は1人当たりの本の購入額で全国1位と本が好き人が多い地域である。その地域で「盛岡書房」は利用者（発達障害やメンタル疾患、引きこもりなど）が古本の回収から仕分け、チェック、発送まで全ての業務を担当しインターネットでの販売をしている。仕入れに関しては、様々なきっかけからフラップいわて、社会福祉法人盛岡市社会福祉協議会、盛岡信用金庫・さわや書店、他との連携に広がり、幅広く寄付を受けるまでに拡大。利用者はこの業務を通じて、自己解決能力や仕事に必要な知識・能力が身につけられ、その結果通所から1年後には多くの利用者が一般企業などへの就労を実現している。職員は相談にのることや安全配慮など必要最低限の支援に努め利用者の自立を促している。



【連携のきっかけ】

フラップいわてとは、盛岡書房の営業活動を通じて、また盛岡市社会福祉協議会等とは古本の地域循環型モデルプロジェクトへの共感がきっかけとなり連携が開始した。フラップいわてが地域密着型のイベントを毎年実施する中で住民から本の寄付をいただき、その本を盛岡書房で整備して市場に戻すことが最初の取り組みとなった。その後、古本市の開催、就学生の職場体験の実施などの連携によりさまざまな取り組みを行っている。

【連携の特徴】

- 地域の知的資産である本を回収、再生、販売することで地域及び全国の資産へと価値を高める取り組みであること。
- 利用者の早期社会復帰・就労を目指した意識づけ、管理モデルの仕組化が出来ている。
- 地域密着型イベントでは利用者に訓練として古本の回収や販売を行うチャンスを提供している。

【連携の成果】

- 本のまち盛岡市で一般市民に留まらず地方公共団体、学校、企業などを巻き込んだ古本の資源循環モデルの形成に成功している。
- 寄付された古本は商品としてオンラインショップを通じ地域に留まらず全国への販売に成功。
- 利用者の意欲を引き出し工賃向上や早期社会復帰といった具体的な実績に繋がっている。

活躍できる作業例

作業名	作業内容	向いている人
集荷	外回り	体力のある人 注意深く作業が出来る人
仕分け・クリーニング	状態の見極め・クリーニング	理解・判断力のある人 集中力のある人
評価・出品・ポイント付与	段階評価PCを使用して出品作業	理解・判断力のある人 集中力のある人
注文された商品の梱包	注文された商品の梱包	パソコン操作が出来る人 判断力のある人

【ここが違う！盛岡書房の取組み】

利用者への意識づけ、及び可視化された管理による高い就労実績

- ① 利用者が何のために、誰のためにという目標を明確にすることにより自己肯定感と自己有用感そして責任感が生まれるようなカリキュラムを設定。
- ② 成長をデータやグラフで可視化して管理。
- ③ 作業状況の確認や作業中の問題点はチームの中で話し合いによる情報共有を身に付けることにより、コミュニケーション力や自己解決力を身に付けるよう指導。
- ④ 施設内で身に付けた基本的なスキルと職場実習での実践スキルは就職に結びつくための力になっている。



仕分け作業



クリーニング作業

これから取り組む事業所に WIN-WINのポイント



一般財団法人岩手県青少年会館
フラップいわて
事務局次長 菅原直近氏

ブックループ活動（本の寄付） は地域住民に好評

利用者の皆さんは非常に真面目で一生懸命仕事をされているという印象です。それが多岐にわたる就職先にも表れていると思います。いっしょに取り組ませて頂いている古本市やブックループ活動（本の寄付）は地域住民に大変好評です。コロナ禍によるイベント自粛などもあり、今後はリモートを活用したイベントを展開していきたいと計画しておりますので、盛岡書房さまとはさらに連携を強化していきたいと考えております。



特定非営利活動法人
いわてパノラマ福祉館
盛岡書房
理事長 高館美保子氏

本の循環を通し、誰もが「自身の存在を肯定できる場所」を創る

盛岡書房の事業は、地域の皆さまからの「本」と「想い」の寄付が礎となっています。利用者は就職を目指すのはもとより人の役に立つことにやりがいを感じ、自分たちで考え工夫しています。その毎日を重ねることで自分も相手も肯定できるようになり力を付けていきます。「人の存在意義は常にプレーヤーであること」プレーヤーとは自分で選択したことを誰かのために行動できる人、そんな人財を地域の皆さんとともに育てています。



作業の様子を写した動画を公開中！
利用者が実際に作業している様子をご覧ください。

法人名	特定非営利活動法いわてパノラマ福祉館
事業所名	盛岡書房
住所	岩手県盛岡市本宮 1-9-12
T E L	019-681-3971
U R L	http://www.npo-ipf.org/web/index.html



しいたけ工場での芽欠作業

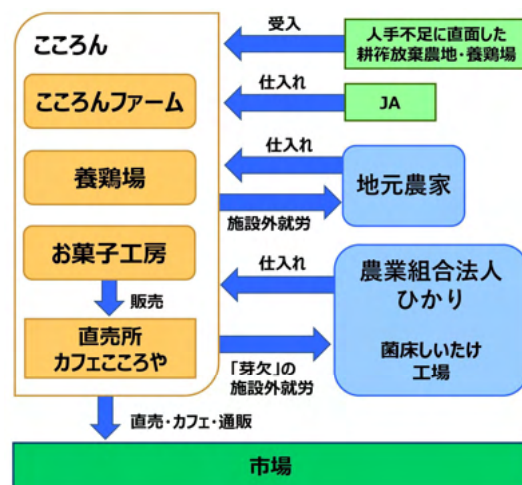


直売所カフェこころや

連携の概要

「福祉と地域課題の解決は相互関係が強く、連携によって同時解決を試みた！」

こころんでは約100名弱の利用者がサービス登録をしており、そのうち50名程の利用者が、耕作放棄地を引き受けた自社農地で無農薬・無化学肥料のオクラ、玉ねぎ、菊芋など約50品目の野菜の栽培や水稻を行っている。また、高齢のため継続が困難になった養鶏場を引継ぎ養鶏業も行っている。利用者が生産した農作物や加工品は、地域農家などの野菜と一緒に自社の直売所で販売したり、カフェメニューの食材として利用している。利用者への就労支援が同時に地域課題の解決にもつながっていると考えているため、自社内での農福連携だけでなく、施設外就労を通じた外部との連携を強化している。今般、農業組合法人ひかり（以下、ひかり）と連携し菌床しいたけ栽培工場で約30名の利用者が、しいたけ栽培における「芽欠」作業を行っている。



【連携のきっかけ】

令和元年の工場立ち上げ時の従業員を募集する際に、地元の養護支援学校に求人掲示の依頼をしたところ、こころんを紹介されたのがはじまり。車で2～3分の好立地であったが、紹介されるまではお互いに知らなかったため、今般の連携をきっかけに良好な取引関係につながった。

【連携の特徴】

- 地域課題を一つずつ取り込み、利用者一人一人に合った作業内容に分解して解決に繋げることを繰り返し、事業活動を拡大していることで、地域に不可欠な担い手になっていること。
- こころんでは、耕作放棄地を利用した自社農場、高齢養鶏者から事業承継をした養鶏場、それらで生産された野菜や卵を販売、食材として利用する直売所カフェを運営している。
- ひかりの工場内作業はこころんでは提供できない作業内容であり、就労の選択肢の幅を広げている。

【連携の成果】

- 工場内は気温や湿度が一定である。一年を通じて同じ環境で作業ができ、ペースが掴みやすいため就労意欲が高まる成果を得た。
- 1日4名前後のチームを組んで、週に4日間午前中の作業を通年で担当している。ひかりからの評判も良く、その他に1週間程度の就労体験の枠を頂く事ができた。
- 体験することでミスマッチを減らし、利用者一人一人にあった支援を確実に提供できる成果を得た。

活躍できる作業例

作業名	作業内容	向いている人
しいたけ栽培の芽欠（めかき）	菌床から発芽したしいたけは重なっており、放置すると育成不全や異形になるため、適正な間隔に間引き作業。	作業ペースを守り、同じ作業をムラなく繰り返すことができる人。 正常なしいたけと育成不全や異形などを区別する判断ができる人。



左：耕作放棄地を引き受けた自社農園「こころんファーム」
右：（農）ひかりでの芽欠作業

【ここが違う！こころんの取組み】

地域の皆さんと小さくスタートし、今では地域の重要な担い手に

- ① こころんの強みは、販路（直売所カフェ）を有していることである。各連携先の商品を直売所で販売しており連携先にとっては大きなメリットとなっている。メリットを提供していることで、こころんが更なる施設外就労の連携先を探す際に協力を得たり、情報をもらえる事につながっている。
- ② 利用者が生産した農作物や加工品は、その他一般の商品と同様に陳列しており作業工賃の向上につながっている。
- ③ 連携先拡充への取り組みは、「利用者の可能性を広げていきたい。」という理念の下実行している。連携先が増えれば自社だけでは提供できない作業内容が増え、利用者一人一人の特性にあった就労支援につながる。
- ④ こころんのある地域は農業が盛んな地域であったため、連携先に農家が多く、農家特有の担い手不足の問題が同時に解決されていくのが特徴。利用者ファーストの考え方が、結果、地域課題の解決につながっている。



「日替わり気まぐれランチ」



直売所カフェ こころん

これから取り組む事業所に WIN-WINのポイント



農事組合法人ひかり
工場長 天沼芳美氏

自身を見つめなおす
良い機会になりました

農事組合法人ひかりは、関連会社とともに「地域に根ざした組織」を目指しています。会社を立ちあげ当初にこころんを紹介されました。こころんとの連携による成果を一言でいうと、『自社従業員の就業意識が向上した』と思います。利用者が一生懸命に真面目に取り組んでいる姿を見て、自分たちとまったく同じ作業をこなすことが出来ると知り、内省して頑張るようになりました。また、利用者へのサポートを意識しながら働くことで、他人に優しく、柔らかに接するようになり、職場の雰囲気も良くなりました。



社会福祉法人こころん
直売所カフェこころん
理事 熊田芳江氏
施設長 吉村まゆみ氏

地域ぐるみで福祉支援を
実現したい

連携をきっかけに、しいたけ工場が地域の養護学校にも認知され実習先になりました。当社には養護学校の卒業生もあり、在学中のしいたけ工場での経験があるため、スムーズな就労支援につながっています。

現在は午前中の就労支援ですが、終日の就労支援も検討し、最終的にはしいたけ工場での採用に繋げて行きたいと考えています。養護学校、当社の就労支援、しいたけ工場での雇用のように地域で完結できる好循環になることを目指します。



作業の様子を写した動画を公開中！
利用者が実際に作業している様子をご覧ください。

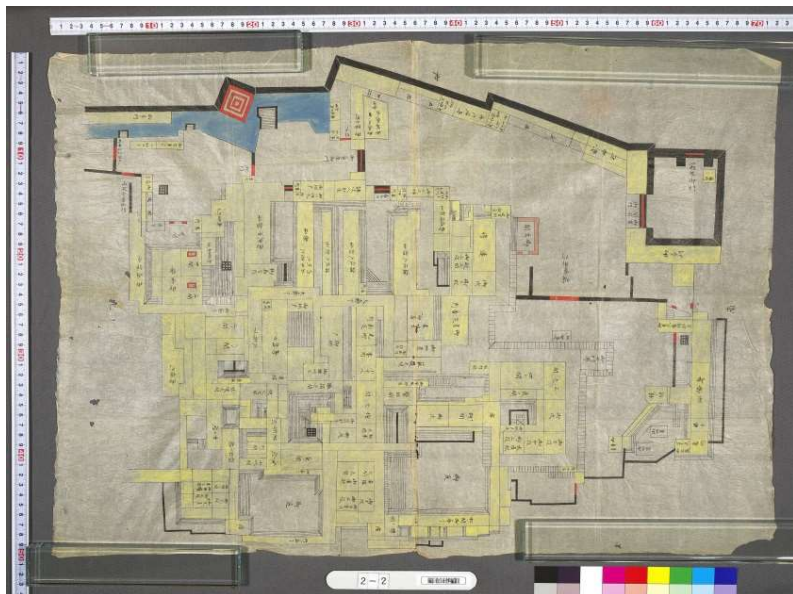
法人名	社会福祉法人こころん
事業所名	直売所カフェこころん
住所	福島県西白河郡泉崎村泉崎字川畑37-1
T E L	0248-53-5568
U R L	http://www.cocoron.or.jp/store/

島根県 松江市

市の歴史、 文化財史料のアーカイブズをつくる 松江市役所

就労継続支援 A 型事業所

白潟事業所



「(江戸)屋敷絵図」(松江市蔵)



事業所内の一室で撮影

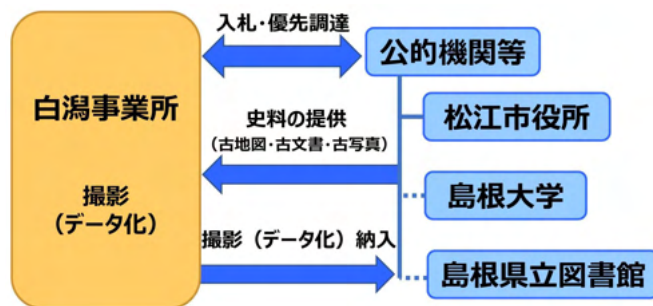


撮影したものをデータ化

連携の概要

「撮影・録音・データ化事業で地域の歴史と 文化財史料を後世に引き継ぐ」

「松江市役所（歴史まちづくり部）」と松江市内の株式会社江友の「白潟事業所」との連携。松江市が所有する古文書や古地図、郷土史資料などを撮影して保存するデータ化事業を行なっている。目的は松江市の史料のアーカイブズ化。白潟事業所は簡単な郷土写真のデジタル化から町内会報誌、祭りの写真、田舎の歴史などに撮影対象を広げていき、現在は難易度の高い古文書や古地図等の歴史・文化財史料を手がけている。連携先は松江市役所の他に島根大学、島根県立図書館等。県外の機関からの依頼もある。



【連携のきっかけ】

2009年から始まった松江市史編纂事業の委員からの紹介を受けて松江市が白潟事業所に依頼するようになった。松江市としても福祉事業所を支援したい意向があったこと、白潟事業所の撮影技術力が高かったことが依頼につながった。市史の編纂事業では松江市の史料のアーカイブズ化という目的もあったが、市役所以外から借りた史料も多かったため、返却する前にデータ化して保存しておく必要があった。市史の編纂事業以降、松江市と白潟事業所との連携は継続している。

【連携の特徴】

- 松江市は城下町として発展し、歴史的背景のある街として古文書や古地図などの歴史史料が多く、データ化保存のニーズが高い
- 撮影、データ化という仕事の依頼を受けて、白潟事業所がコストを抑えた材料を使用した自前の撮影室と撮影機材をつかった
- 同事業所は撮影のクオリティを上げながら、コストダウンした分を販売価格に反映して、提供先に金額的なアドバンテージを出している

【連携の成果】

- 松江市史編纂事業を通じて地域の歴史史料や文化財資料を後世に残す、地域課題の解決の一端を担った
- 同事業所は資料の撮影から派生して、冊子の作成、製本印刷、防災マップの作製など同事業の幅を広げている
- 同事業所が一般的な市場価格より安価で提供していることにより、市税の節約にもつながっている

活躍できる作業例

作業名	作業内容	向いている人
史料撮影	デジタルカメラ、スキャナーを使って資料を撮影する	カメラ等精密機械が好きな人
画像のデータ化 (調整)	トリミング、色調整	静かに淡々と作業したい人
史像のデータ化 (大型資料の撮影画像合成)	専用ソフトを使って、数十枚の分割画像を一枚の画像に合成する	間違い探しが得意な人
機材の調整、 メンテナンス、設計製作	効率やクオリティを考え、機材の改良をする	想像力、ひらめき力のある人

【ここが違う！白潟事業所の取組み】

設備面でコストダウンを図り、販売価格に反映

- ① 白潟事業所の母体となる法人（株式会社江友）は、業務に人を合わせるのではなく人に合わせて仕事を創り出すという理念を持っており、法人全体で利用者の特性に合わせた10に渡る事業を運営している。松江市役所との連携はその中の「撮影」事業にあたる。
- ② 撮影、録音、データ化事業は専門的な技術が必要なうえに、扱う対象が古文書や古地図など歴史史料であるため、その分野や取り扱い方にも関心を持つ人材が求められる。現在、その分野に知識のある職員のもと、3～4人のチームで作業に取り組んでいる。松江市内でこの事業に特化するところは一般企業も含めてほとんどないとみられる。
- ③ 作業には大掛かりな機材が必要だが、それらの大半をホームセンター等から購入した材料を使って手作りしてコストダウンを図ってきた。また、カメラ等の一部の機材は補助金を利用して購入した。コストダウンした分を安価な販売価格につなげており、撮影のクオリティが高さとともに、受注が継続する要因となっている。



照明環境も安価な機材をセット



撮影対象は小さなものから大きなものまで

これから取り組む事業所に WIN-WINのポイント



松江市歴史まちづくり部
史料調査課 小山祥子氏

松江市は郷土史料の保存事業 のニーズが高い街です

松江市は先の戦争で比較的被害を受けずにすんだ街であり、江戸時代からの史料が残っています。歴史的背景のある街として古文書や古地図の保存事業のニーズがある街です。これから発見される史料もたくさんあるので、失われる危険の前にきちんとデータ化していきたいですね。白潟事業所さんは熟練した技術をお持ちなので安心して任せられます。



株式会社江友
白潟事業所
カメラマン、レクチャー
上野誠人氏

古文書の取り扱いと撮影技術は 細かい作業の積み重ねです

撮影室や撮影機材の環境づくりは上司といっしょに一からつくってきました。この仕事は地域の歴史に関わるので、仕事の結果が報道されたり、完成物として人の目に触れることで仕事に誇りが持てます。古文書の取り扱いや撮影技術は細かい作業の積み重ねのため、今後は向き不向きも含めて後進の技術者の人材育成にも取り組みたいですね。



作業の様子を写した動画を公開中！
利用者が実際に作業している様子をご覧ください。

法人名	株式会社江友
事業所名	白潟事業所
住所	島根県松江市灘町139-12
T E L	0852-59-9193
U R L	http://ko-you.com/

高知県 高知市

高知の観光土産品
工芸品企画製造卸業
有限会社宮地民芸

就労継続支援A型・B型事業所（多機能）

こだかさ障害者支援センター



「鳴子」



塗装



バチミミ穴あけ

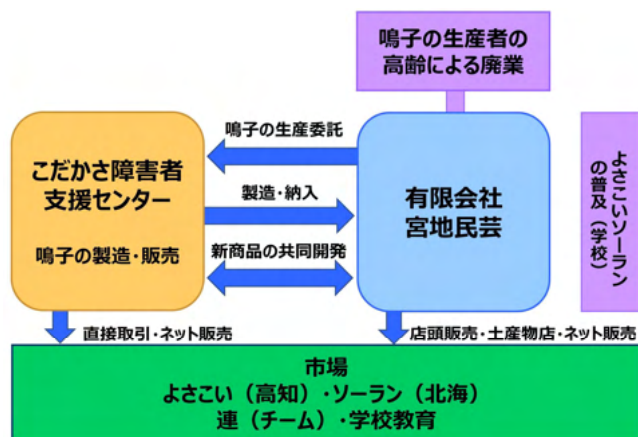


型抜き

連携の概要

「高知のよさこい祭り、品質の良い『鳴子』の製造販売で連携」

高知市内のA型・B型事業所こだかさ障害者支援センター（以下、こだかさ）と同市内の観光土産品卸業「有限会社宮地民芸」（以下、宮地民芸）との連携事業。高知県はよさこい祭りの発祥地。こだかさは祭りで踊り子が使う『鳴子』を生産してきたが、北海道で始まったよさこいソーラン祭りを機に祭りが全国規模になり、一気に生産数が増加した。それ以降、主力製品として売上の多くを担っている。高知市内で観光土産品卸業を営む宮地民芸とは、鳴子の製造販売で長く連携してきた。コロナ禍で祭りが中止になり生産数が減少してからは、鳴子を使った新商品の共同開発に取り組んでいる。



【連携のきっかけ】

35年ほど前に宮地民芸で取り扱う鳴子を生産していた工場が閉鎖になったことをきっかけに、木工製品をつくっていた同事業所との連携が始まった。偶然近くに同事業所があったのが始まりの理由。以来、宮地民芸のオリジナルデザインの鳴子や宮地民芸で受注した鳴子を同事業所が製造している。

【連携の特徴】

- ・ 国産から海外産まで鳴子の製造者は多いが、高知県は木材が豊富で素材のヒノキは音がよく鳴ることから、こだかさの製品は品質面の評価が高い。
- ・ 鳴子はこだかさの主力製品であり、ピーク時は最大6万組（12万本）を製作していた。また祭りにとどまらず学校の行事で使用する用途の鳴子もつくっている。
- ・ コロナで販売量が激減したため祭りの用途以外の商品を開発。スマホを置ける「なるこ型スマホスタンド」を共同開発し、宮地民芸が特許意匠を取得した。

【連携の成果】

- ・ 30年以上にも渡る連携が続いており、高知の伝統産業である鳴子の製造と販売をともに担っている。
- ・ 宮地民芸の企画で共同開発した「なるこ型スマホスタンド」の売れ行きが伸びており、第2の新商品開発に取り組む計画がある。
- ・ 利用者には木工職人としての技術も積み重なっているうえ、地域の伝統産業に関わっていることが励みとなり、事業加速の要因になっている。

活躍できる作業例

作業名	作業内容	向いている人
木取り・木作り	木材をサイズごとに切り分け、機械を使っていろいろな形の鳴子を作る。それぞれのパーツの穴あけをする。	機械を使う注意力・集中力がある人
塗装	鳴子の複数のパーツの研磨・塗装を繰り返して着色をする。	細かい作業が得意な人 配合の計算ができる人 環境に対応ができる人
組立・検品	鳴子の音の出る部分を角度を確認しながら組み立てる。 キズ・仕様内容を確認し修正等をする。	理解力・集中力が高い人 細部まで見ることができる人 責任感がある人

【ここが違う！こだかさ障害者支援センターの取組み】

オリジナルデザイン、工程の細分化、ネットショップの早期立ち上げ

- ① 顧客は祭りに出場するチームの踊り子、学校関係者、観光客の土産物など幅広い。特に踊り子が使う鳴子は衣装にあわせたオリジナルデザインとし、ロゴの焼き印を入れたり、色を変えたりするなど顧客と相談しながら製作している。
- ② 作業工程は約23工程に分業されている。図面化は主に職員が担い、利用者は「切る」「穴あけ」「塗装」等のパーツ作業を担当している。工程が多いのでそれぞれの障害に合わせた作業が可能である。聴覚障害の利用者には音が聞こえないため機械の扱い方に特に注意を払っている。
- ③ 機械工具が充実しており、レーザー加工できる機械、NC旋盤など工業用の機械が数十台ある。機械は利用者といっしょに使いやすいものを選定している。事業所の方針として利用者の手作業に頼るだけでなく、機械を充実させて生産量を増やし、利用者の工賃に反映させることを重視している。
- ④ ネットショップを立ち上げたタイミングが早く、ホームページからの受注も多い。全国、海外からも注文が入っている。



木取り



組立

これから取り組む事業所に WIN-WINのポイント



有限会社 宮地民芸
代表取締役 戎吉香与子氏

木工商品部門の大切な パートナーです

宮地民芸は私の祖父の代から高知市内で商売を営んでおり、こだかささんとは長いお付き合いになります。当店の木工商品の大切なパートナーです。鳴子を製作している利用者さんには高齢の方もいらっしゃいますが、納期までに1本1本大事につくってください。ブランドとして続いてほしいし、私たちががんばりたいですね。



社会福祉法人小高坂更生センター
こだかさ障害者支援センター
木工部部長 友村正子氏

鳴子から派生する新商品を 考えたいですね

事業所では鳴子と木工製品の2つのラインを育てており、今後も力を入れていきます。よさこい祭りが中止となって私たちが宮地民芸さんも厳しい状況です。「なるこ型スマホスタンド」に続く新製品を考えていこうかという話をしています。鳴子をベースにした次の商品をいっしょに企画していきたいですね。



作業の様子を写した動画を公開中！
利用者が実際に作業している様子をご覧ください。

法人名	社会福祉法人小高坂更生センター
事業所名	こだかさ障害者支援センター
住所	高知県高知市越前町2-4-5
T E L	088-873-0821
U R L	http://www.kodakasa-h.com/kodakasa.html

愛媛県 松前町

愛媛の地場産業の一つである海藻の珍味を生産販売する企業

株式会社昆布森

就労継続支援B型事業所

まこと（松前事業所）



まこと（松前事業所）全景



芽かぶ入りあさ漬け塩



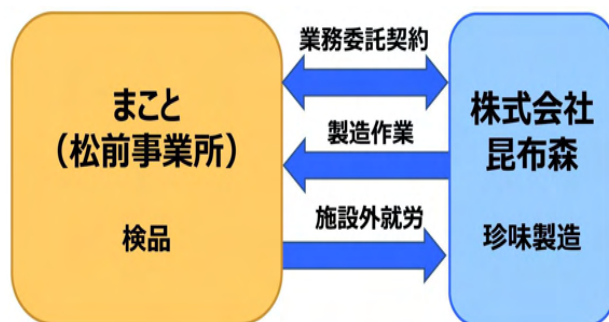
芽かぶ茶

連携の概要

「効果的な施設外就労のプロセスによる愛媛の地場産業である珍味産業への貢献」

松前（まさき）町の珍味業界は小魚珍味の生産を古くから手がけ、地元瀬戸内海で獲れる新鮮な小魚を主原料として極めて良質の珍味として全国的に知られている。まこと（松前事業所）（以下、まこと）は、珍味の生産事業者である株式会社昆布森（以下、昆布森）と同社製品の製造における受託作業、及び同社工場への施設外就労で連携が行われている。受託内容としては、乾燥昆布の異物除去及び一次検品。そして、別製品（ひじき白和えの素）の包装用袋へのラベル貼付の作業を行っている。また、同製品の充てん作業の作業訓練として、細分化された模擬作業も行われている。施設外就労では、“おしゃぶり芽かぶ”、“ひじき白和えの素”を含め、全4品目の作業を担当しており、箱作り、製品充填作業、及び機械検品のところを担当している。常時施設外就労として4名を派遣し、全体で7名が昆布森との作業に従事している。

企業、事業所ともに、作業工程の改善及び利用者の適正分析/評価も熱心に取り組んでおり、作業工程の改善活動が継続して行われている。



【連携のきっかけ】

管理者である山崎氏が、民間企業勤務時代に珍味業者である昆布森が障害者支援に関心がある企業であることを知っていた。また、まこと設立前に福祉事業所にて勤務していた時も同社から作業の相談を受けており、以前から同社との親交があった。平成29年より昆布森からの受託作業を開始し、まことを昆布森の隣に開設することになってからは施設外就労も始まり現在のような連携となった。昆布森は、20年以上前から、障害者施設への作業を委託してきた経験もあり、また山崎氏との親交により、具体的な連携が始まることになった。

【連携の特徴】

- まことの職員が、企業から求められる、品質、納期、コストの点などビジネス感覚を有していること。
- 昆布森及びまことは利用者の優れた適性に合わせた工程を組み立てることを目的に、工程の細分化に取り組んでいること。
- 昆布森は2021年に「SDGs宣言・松山市SDGs推進協議会登録」を受けている。

【連携の成果】

- 双方が工程の細分化に取り組んだ結果、作業効率が向上してきている。
- 昆布森への一般就労への可能性のみでなく、同様の作業が発生する他の企業への事業拡大の可能性が大きくなってきている。
- 他の珍味製造企業への就労が決まった利用者がいる。

活躍できる作業例

作業名	作業内容	向いている人
前作業	機械による屑取り除き	安定したペースで作業できる人
計量	機械を通過した芽かぶを計量	指示を理解し作業できる人
検査	計量した芽かぶを色識別/金属探知機ラインへ投入	周囲の環境に適応できる人
封入・保管	芽かぶを専用ケースに入れて保管	手順を理解し作業できる人 体を動かすことが得意な人

【ここが違う！まこと松前事業所の取組み】

地場産業を支えるために必要なコスト感覚を生産性の追求によりビジネスパートナーとして活躍

- ① 民間企業勤務経験のある経営者が職員を育成していること。
- ② 利用者の就労を考えるうえで、事業として成り立たせることに重点をおいており、利用者には基本的動作として挨拶等の勤務態度についての指導を行い、委託された作業では品質及び納期を遵守することなど、強く留意されている。
- ③ 昆布森も、就労継続事業所への作業委託の長い経験、及びそこで培った障害者の特性への理解が深く、工場長及び社員にも深い造形がある。
- ④ 利用者が担当する作業工程については、常に改善が検討されている。施設外就労を目指して、体験、工夫を重ねて、利用者の作業工程を開発していくプロセスが、この連携で強く意識されていることも、好循環を生んでいる。
- ⑤ 松前町には、珍味の企業が多くあり、事業の担い手確保に困っている企業が多い。まことは、これら企業への労働力を供給することで地域産業に貢献する事業所となることを目指している。
- ⑥ このような取り組みが、別の珍味事業者への認知度として広がっており、利用者の就労の機会を考えている企業も増えており、就職の事例もでている。



振り機投入作業



色彩識別機

これから取り組む事業所に WIN-WINのポイント



株式会社昆布森
常務取締役・工場長 好永隆之氏

障害者を労働者として活かす ことにより、事業所が活性化

障害者を労働者として、弊社内でともに働くことになり、現場の職員も、事業所の製造工程の改善に積極的に取り組むようになりました。また、そのことにより、社内のコミュニケーションが活発になり、事業所全体の活性化を感じることができています。今後は、作業工程の機械化ができる部分等を更に開発し、施設外就労、障害者雇用を図りながら、事業を進展させていきたいと考えてます。



特定非営利活動法人まこと
まこと（松前事業所）
理事 山崎澄人氏

担い手の不足する地場産業 （珍味事業）へ労働力育成 モデルの確立

昆布森との連携事業をモデルに、施設内の作業から施設外就労をつなげた作業モデルを確立できています。このことにより、地域に多数存在する珍味事業者も、障害者を労働者として活用することについて、徐々に関心を持たれるようになって来ており、就職事例も出てきました。今後は、このモデルを更に進展させ、地場産業である珍味事業への労働力育成モデルを作って行きたいと考えてます。



作業の様子を写した動画を公開中！
利用者が実際に作業している様子をご覧ください。

法人名	特定非営利活動法人まこと
事業所名	まこと（松前事業所）
住所	愛媛県伊予郡松前町西高柳246-4
T E L	089-985-2000
U R L	https://npo-makoto.jp/index.html



唐辛子の収穫作業



唐辛子の栽培風景



唐辛子の選別作業



やまつ辻田の商品「鷹の爪」

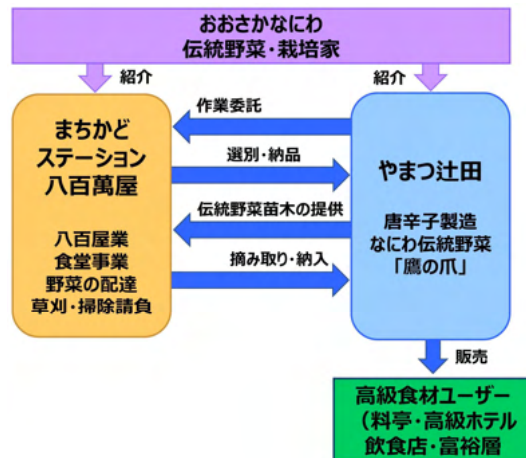


A級品の鷹の爪

連携の概要

「なにわの伝統野菜、唐辛子のブランド『鷹の爪』の摘み取りと選別作業を請け負う」

大阪府堺市で長く和風香辛料の製造販売を営む「株式会社やまつ辻田」と同市内の事業所「まちかどステーション八百萬屋」の連携。農福並びに地場産業との連携である。やまつ辻田が扱う数ある香辛料のうち、唐辛子『鷹の爪』は「なにわの伝統野菜」に認定された地域の特産品である。その摘み取りと選別作業を同事業所が請け負っている。堺市はもともと唐辛子の一大産地だったが、生産農家が年々減少。今や国内で流通している赤唐辛子の大半が外国産だが、同社の赤唐辛子は貴重な国産品として高級料亭などから引き合いが多い。同事業所にとっても通年作業を確保できる安定事業となっている。また、畑の一角で唐辛子のテスト栽培を行い、今後は栽培数も増やす予定。



【連携のきっかけ】

2021年7月、堺市で栽培される鷹の爪が大阪府の「なにわの伝統野菜」に認証されたことを機に、ある紹介者を通じて、やまつ辻田がまちかどステーション八百萬屋を知ることになった。鷹の爪は摘み取りと選別作業が大変で、これまで地域のボランティアに内職的に作業を依頼していたが、その一部を同事業所にも依頼。事業者同士が同じ堺市内にあり、原材料の持ち運び等にも便利なことも連携の後押しとなった。作業を請け負った事業所は現在、作業所の一部で唐辛子の軸とりや色別に分ける等の選別作業を行っている。

【連携の特徴】

- かつて唐辛子の産地であった堺市に残る数少ない国産唐辛子に関わる事業であり、「なにわの伝統野菜」に認証されるなど、地域性と伝統性がある。
- 事業所ではもともと野菜の栽培や収穫を行っており、唐辛子の選別作業にとどまらず、栽培にも事業を広げていける環境にある。
- やまつ辻田の国産唐辛子は希少性が高く安定した販路を持っている。メディアで紹介されることも多く、ブランド化された商品である。

【連携の成果】

- 唐辛子の選別作業は通年行われるため事業所の安定した売上確保につながり、受注単価の高い栽培にも着手することで工賃アップの可能性がある。
- 企業側にとっても、人の手と労力がかかる摘み取りと選別作業の担い手を増やせる機会となった。
- 商品がメディアに取り上げられる機会が多く、選別に携わる事業所の利用者のモチベーションアップにつながっている。

活躍できる作業例

作業名	作業内容	向いている人
準備	手袋、帽子、エプロンを着用し、机などを消毒する	衛生面がしっかりしていて、段取りの見通しがもてる人
選別	軸と枝を外す	指先が器用である人。 スピードのある人。
色選別	A級品からC級品までを色別に分ける。痛みのある部分はとって捨てる	判断力がもてる人。細部に関して気配りができる人。
片付け	色別の箱に入れる。ビニール袋に入れ口をしぼる。ゴミをまとめる。掃除機をかける	衛生面がしっかりしていて、全体を捉えて指示出しができる人

【ここが違う！まちかどステーション八百萬屋の取組み】

ゆるやかな納期のもと、丁寧な選別作業を行う

- ① 唐辛子の栽培と摘み取りは時期が決まっているが、栽培管理期間は比較的長く、選別作業は通年生じるため、事業所の安定した収入源になる。また、事業所のペースで作業配分できるのも強みである。
- ② 唐辛子の選別には一定のスピードが必要だが、事業所としては生産性より利用者のペースと訓練であることを尊重しており、仕事に向かう構えや取り組み方を重視している。発注する企業もそのことを理解しており納期を設けていない。
- ③ 選別作業は食品を扱うため衛生面に配慮できる人や、ひとつひとつを見極めて選り分けていくので作業に集中できる人、寡黙な人が向いている。
- ④ 同事業所の近隣には後継者不足で放棄された畑や田んぼが多くあり、唐辛子の栽培は拡大していける環境にある。そのためこの連携事業を主軸事業に育てていく意向がある。



唐辛子の摘み取り作業



摘み取った唐辛子を色別に分ける

これから取り組む事業所に WIN-WINのポイント



株式会社やまつ辻田
代表取締役社長 辻田浩之氏

**日本に唯一残る鷹の爪純系
品種を120年間守り伝えています**

日本の唐辛子は外国産が99%、国産の「鷹の爪純系品種」は弊社が唯一です。それだけ希少性があるものですので、購入して下さるお客様も品質にこだわる料理人が多いです。事業所の利用者さんに、どのような人たちが買ったださるか話をしたり、メディアに取り上げられたと話すと喜んでくれます。そんな表情を見ると私もうれしいですね。



特定非営利活動法人ASUの会
まちかどステーション八百萬屋
理事長 増田靖氏

**対等なパートナーシップで心地よい
関係ができていますと思います**

連携先のやまつ辻田さんは事業所に対して対等でフラットな目線で関わる方です。作業内容の指示が明確で、円滑なコミュニケーションができています。今後は唐辛子の栽培で事業の幅を拡げ、売上の確保を行なっていきますが、その一方で一流の食材を扱っているという自覚を持ち、品質を担保する上でも作業場の衛生環境を向上させていきたいです。



事業所ホームページへのご案内です。
事業所の活動を俯瞰的にご覧いただけます。

法人名	特定非営利活動法人ASUの会
事業所名	まちかどステーション八百萬屋
住所	大阪府堺市南区槇塚台3-1-7
T E L	072-289-7139
U R L	https://yaoyorozu-ya.com/



出荷作業（トラックへの積み込み）



事業所入口

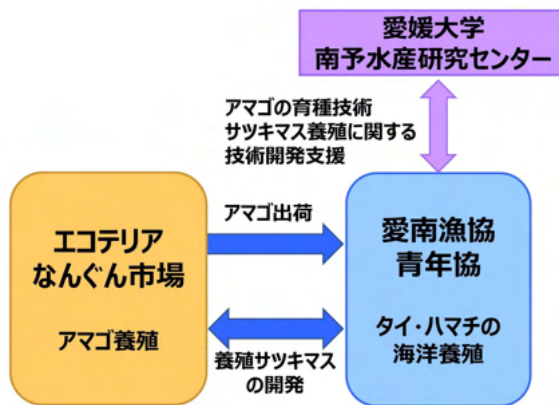


アマゴの養殖場

連携の概要

「地場産業である養殖業者と障害者福祉施設 による新たな地域特産品“サツキマス”開発」

エコテリアなんぐん市場（以下、なんぐん市場）では、平成26年後継者問題を抱えていた事業者から事業承継しアマゴの養殖事業を開始した。一方、愛南漁業協同組合青年漁業者連絡協議会（以下、青年協）では、タイやハマチの養殖の閑散期を利用した新たな魚種としてサツキマスの生産に取り組みを始めていた。アマゴもサツキマスも同じ魚だが、河川で生まれて一生を河川で過ごす個体はアマゴ、海へくだった降海型の個体はサツキマスと呼ばれており、サツキマスの生産には、海での養殖技術が必要になる。双方にとって初めての取組となるため、愛媛大学・南予水産研究センターの指導を仰ぎ、試行錯誤を繰り返しながら、目標とする大きさ（1.5～2.0kg）のサツキマスの開発を行っている。現在、0.8～1.0kgまでには到達しているが、目標達成までにはさらに研究が必要であり、新たな地域特産品としてのサツキマスの完成を目指している。



【連携のきっかけ】

連携のきっかけは、青年協で養殖生簀が空く期間（1～5月）に、養殖できる新たな魚種の開発を始めたことにある。サクラマス及びサツキマス等、事例としては少ないが、他の地域で川魚を海で養殖する事業が参考になり、たまたま同地域でサツキマスの稚魚となるアマゴの養殖を営む当事業所があり、連携してサツキマスの養殖を目指すこととなった。なんぐん市場では養殖事業そのものが初めてであり、青年協も川魚の育種から取り組むのは初めての経験であり、双方が同じ目線になったことも共同開発を進めるきっかけとなった。

【連携の特徴】

- 双方がそれぞれ異なる設備及びノウハウを有しており、特産品としてのサツキマスを開発するためには、双方の協力が必要不可欠である。
- サツキマス養殖事業が成立すれば、アマゴの養殖出荷、地域の特産品としてのサツキマスの養殖販売と、双方に新たな付加価値が創出される。
- なんぐん市場では、飲食事業も行っており、サツキマスの加工品、新メニューの開発への事業の広がりを期待できる。

【連携の成果】

- 南予水産研究センターからの技術指導と、双方の協力により、海へ移しても生育できるアマゴの安定生産が可能となった。
- アマゴの育種技術も進み、当初150g程であったアマゴを最大200g程度の大きさにまで育種ができるようになった。最終目標は350gである。

活躍できる作業例

作業名	作業内容	向いている人
アマゴの養殖、エサやり	定期的なエサを与える	集中力が続く人 体力のある人
水源の手入れ	湧き水からの水槽までの流路の点検	水量等の変化に気づける人、 違和感があつた時スタッフに報告できる人
水槽の清掃	水槽にはいる落ち葉等のゴミ、アマゴの死骸等の撤去	体力のある人 集中力の続く人

【ここが違う！エコテリアなんぐん市場の取組み】

地域の事業と知恵を繋ぎ、新たな地域産業の創出へ

- ① 山間地でアマゴ養殖を行っていた事業者が、後継者問題を抱えており担い手としてなんぐん市場に事業承継を行った。
- ② アマゴ養殖事業を進める中で漁協や南予水産研究センターとの輪ができた。
- ③ 養殖サツキマス開発事業には生簀が空いている期間に1.5～2kgにまで養殖育成することが必要であり、その為にはアマゴを現在の1.5倍ほどに育てることが最大の課題となっている。このような連携がこうした課題を乗り越える原動力となっている。
- ④ なんぐん市場を運営するNPO法人には山出（やまいだし）温泉事業及びレストラン事業（魚介料理）があり、養殖サツキマスの開発が実現すれば素材を活用したレストランメニュー及び加工品の開発も可能となる。
- ⑤ 黒潮が流れ込む太平洋に面している愛南町は、カキ・ブリ・タイなど養殖に最適な漁場である。地場産業である養殖業の設備やノウハウを活かした新たな魚種での養殖の挑戦は、次につながる事業として期待されている。



養殖中のアマゴ



出荷作業（水揚げ）

これから取り組む事業所に WIN-WINのポイント



愛南漁業協同組合
青年漁業者連絡協議会
中田知公氏（ヤマニ中田水産 代表）

地域の地場産業である養殖事業における課題を解決し、新たな地域特産品の開発を目指す

愛南町は、日本有数の養殖によるタイ・ハマチの産地です。しかしながら、地場産業である養殖事業における担い手不足は顕著です。そのような中、生簀の空いた期間（1～5月）を活用したサツキマス養殖事業の開発は、地域の産業を魅力のある事業として育てられる可能性があります。



特定非営利活動法人
ハートinハートなんぐん市場
エコテリアなんぐん市場
田上純一氏

サツキマスの養殖事業を契機に、アマゴの育種技術が向上

当事業所はA型事業として、地域の担い手が不足する農業を中心に事業展開を行っていました。そのような中、担い手のいなくなった、アマゴの養殖事業を引継ぐことになり、右も左も分からない状態から、養殖事業が始まりましたが、青年協からの問い合わせで、サツキマスの養殖事業に挑戦する機会を得て、また同時に、南予水産研究センター等からの支援も仰ぐことができ、アマゴの養殖事業も軌道にのせ運営できるようになりました。

法人名 事業所名	特定非営利活動法人ハートinハートなんぐん市場 エコテリアなんぐん市場
住所	愛媛県南宇和郡愛南町城辺甲2 9 3 4
T E L	0895-70-4031

滋賀県 大津市

明治44年創業の酒蔵、
日本酒の魅力を伝える酒飯店も営む
田中酒造株式会社

就労継続支援 A 型事業所

がんばカンパニー



がんばカンパニー店舗



さけかすまろん



甲賀流白玉爆弾ポルポローネ



酒粕の菓子

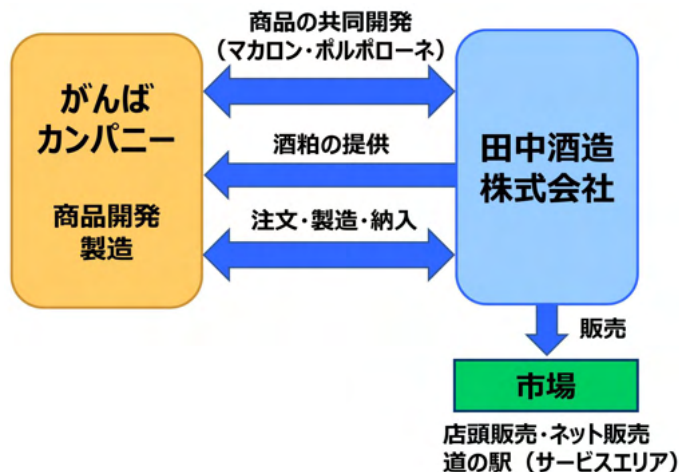


製造の様子

連携の概要

「酒粕を使った菓子を共同開発。 甲賀忍者のコンセプトで地域性豊かな 商品へ成長」

滋賀県甲賀市の酒蔵「田中酒造株式会社」（以下、田中酒造）と滋賀県大津市の事業所「がんばカンパニー」との連携事業。田中酒造の酒粕の菓子「さけかすまろん」と「甲賀流白玉爆弾ポルポローネ」の共同開発と製造をがんばカンパニーが行っている。地域の老舗酒蔵である同企業が百周年記念に酒粕を原材料とした菓子を発売し、菓子製造で知名度の高い同事業所に依頼した。同企業の所在地である甲賀市をイメージする忍者をコンセプトにした特徴ある菓子が完成し、同企業の店頭と自社サイト、高速道路のサービスエリア等で売上を伸ばしている。



【連携のきっかけ】

2011年に田中酒造が創業百周年を迎え、酒粕を使ったお菓子をつくりたいと発案。当初、地元の菓子屋に製造を依頼していたが、販売数が増えたので製造力のある企業を探していたところ、甲賀町の商工会からがんばカンパニーを紹介された。大手の菓子メーカーではロット数が合わない、生産ラインに材料が合わないなどの理由で断われたが、同事業所は「地元のものでおもしろい」と引き受けた。開発当初はなかなか売れず、受発注の機会も少なかったが、現在は継続的に製造販売する商品に育っている。

【連携の特徴】

- 地域性を表す甲賀忍者を商品コンセプトに据え、商品の形態やパッケージ、ネーミングのイメージを統一している。企業と事業所が力を合わせて開発に取り組んだ。
- がんばカンパニーは滋賀県ではクッキー製造者として知名度が高い。OEMや企業のPB商品の開発製造を主軸にしており、企業側からのオファーが多い。
- 原材料に使用する酒粕は田中酒造が廃棄処分する予定のものを無償で提供している。原材料の有効活用になっており、リサイクルでエコな取り組みの側面も併せ持つ。

【連携の成果】

- 地域の企業と事業所が地域性を出した商品開発に取り組み、全国ネットで取り上げられるなど地場産業のPRの一端を担っている。
- 酒粕という原材料を使った菓子開発と製造の経験が、がんばカンパニーの製品ラインナップを広げるきっかけのひとつとなった。
- この取り組みの話が地域に広がり、田中酒造には酒粕を練り込んだパンをつくりたい等の他所からの引き合いが入っている。

活躍できる作業例

作業名	作業内容	向いている人
ミキシング	お菓子の材料を配合にミスがないように、しっかり分量を調整する	重い物を運ぶ体力がある人 計量器の数字がわかる人
成形・洗浄	手作業や専用の機械でオープンに入れるまでのお菓子の形を作る。使用した器材や容器等を洗う	同じ作業を継続できる人 手先の器用な人 注意力のある人
オープン・乾燥	湿度、温度管理を徹底し、お菓子を焼き上げる。その後、乾燥室で冷やす	機械操作を正確に行える人
包装・検査	成形されたお菓子の包装をひとつひとつ手作業で行う。金属探知機などで不純物を調べたり、校正されたばかりを使用してグラムチェックを行う	手先の器用な人 計量器の数字がわかる人
出荷	包装された商品を箱詰めし発送する	正確に数を数えられる人

【ここが違う！がんばカンパニーの取組み】

積極的な受注、大型機械の導入、商品開発力が強み

- ① がんばカンパニーは長く菓子製造を行い、地元でもよく知られている。また、OEMや企業のPB商品の開発製造の実績も多く、企業側からのオファーが入りやすい。特に大手メーカーが避けがちな小ロットの製造を引き受ける点が他社との差別化の要因になっている。「利用者の人的作業を補うため」と「売上を上げるため」に積極的に設備投資をして、製造に必要な大型機械を導入している。
- ② 今回の連携で開発した「さけかすまろん」では、酒粕を活かせる菓子としてマカロンを選択。酒粕をクリームに練り込んだ。甲賀忍者を商品コンセプトに据え、竹炭を使って黒いマカロンにするアイデアを出した。また、もうひとつの商品「甲賀流白玉爆弾ポルポローネ」でも甲賀忍者のイメージを取り入れている。
- ③ 商品コンセプトについては両事業者が知恵を出し合い、打ち合わせ、制作、試食、意見の擦り合わせを繰り返し、着手から完成までに約3ヶ月を要した。販路のひとつに高速道路のサービスエリアがあることから、アルコールの含有量などにも気を配っている。



成形の様子



ミキシングの様子

これから取り組む事業所に WIN-WINのポイント



田中酒造株式会社
代表取締役 田中重哉氏

**安定したクオリティを期限内に
納めてくれる安心感があります**

開発当初は販売量が少なく発注できない時期もありましたが、小ロットの発注を快く請け負って期限内に納めてくださいます。なによりも安定した商品を提供してくれるのがありがたいですね。うちは酒蔵で菓子は初めての商品なので、開発時はがんばカンパニーさんのノウハウを全面的に信頼しました。



社会福祉法人共生シンフォニー
がんばカンパニー
所長 水野武氏

**熱意と柔軟な対応、商品完成後の
販売努力が大きいです**

連携先の田中酒造さんの熱意が強かったです。こちらの提案も柔軟に聞いてくださったことがスムーズな開発を後押ししました。また、パッケージの開発は田中酒造さんがされましたが、そのデザインのよさも商品の完成度を上げています。商品の完成後も継続して売れていることが連携の成功につながっていると思います。



作業の様子を写した動画を公開中！
利用者が実際に作業している様子を
ご覧いただけます。

法人名	社会福祉法人共生シンフォニー
事業所名	がんばカンパニー
住所	滋賀県大津市大將軍2-31-5
T E L	077-543-2766
U R L	https://gamba.shop/